アンケート構成

釜ケ崎と愛隣地区

あいりん＝愛隣地区という呼び名が、いつ、どんな人によってきめられたかについては、別の記事が明らかにするはずなので、ここではアンケートの結果だけをまとめた。

「なぜ〝あいりん〟か」という特集をきめてから、編集委員会が各方面に送ったアンケートの文面は次の通りだった。

様

雑誌「労務者渡世」編集委員会

私たちが寝起きしている西成の簡易旅館街は、昔「釜ケ崎」と呼ばれていました。いま地図にその名前はありませんが、私たちは釜ケ崎と言っています。（そのほか、なかまうちでは「霞町」と言う者や、単に「西成」と言う者もいますが）

ところが、同じ場所について、行政やマスコミはここ二十年以上、「愛隣＝あいりん地区」という呼び方をつづけています。このことは多分御存知でしょうが、「愛隣＝あいりん地区」という呼び方は、現実にそこで生きている私たちにはまったくきらわれています。誰も使いません。

そこで私たちは、ささやかな私たちの雑誌「労務者渡世」の誌上で、この事実、地元の生活者に受けいれられない呼び方が、行政とマスコミにだけおこなわれている問題を考えて

みることにしました。そして地元外の方々の御意見も伺ってみることにしました。

お忙がしいところをまことにすみませんが、別紙に箇条書きした事項について、御意見を御記入の上、一〇月一〇日までに到着するよう御返送下さることをお願い致します。

（質問一）釜ケ崎、西成、霞町などの伝統的自然発生的な呼び方と愛隣＝あいりん地区という呼び方の、どちらがいいと思われますか。

（質問二）釜ケ崎……の方がいいと思われる方はその理由をどうぞ。

（質問三）愛隣＝あいりん地区の方がいいと思われる方はその理由をどうぞ。

（質問四）二つの呼び方以外のお考えがあれば、それをどうぞ。

（質問五）釜ケ崎あるいは愛隣＝あいりん地区の状況について、日頃のお考えがあればどんなことでもどうぞ。

以上のアンケートは手紙の部分と質問の部分を別々の用紙にタイプ印刷して、質問の方には回答記入の空白を適当に設け、返送用の封筒（切手をはり宛名も書き入れた）を添えて発送した。

発送先を大きく分けると、府、市、府警本部、西成署長、労働福祉センターなどの役所関係。西成区長、国鉄、南海、地下鉄各駅長や町を明るくする会などの地元いろいろ。西成区に関係のある衆議員から市会までの各党議員個人、各党府本部、区支部など。新聞放送と週刊誌の関係、作家・詩人・学者などとなり、全部で八〇通を越えた。

到着した回答は一五、ほかに回答できないという返送が二、受取拒否が一、あて名のところにいないという返送が一で、ともかく何かの形でこちらへ戻ったのが合計一九。あと六〇通あまりはニギリつぶし、ゴミ箱行きの運命になったらしい。

総体的なこういう結果を前おきとして、これから回答のあった一五通をできるだけ原文のまま紹介し、また回答以外のいろいろについて考えてみようと思う。

黒岩重吾氏（作家）の、釜ケ崎の方がいいという理由。

――自然発生的で人間味がある。愛隣は、おかみが付けた名で、釜ケ崎にそぐわない。お互いに愛せよという説教臭い名は（四字不明）公団住宅につければ良い。

小関三平氏（社会学者）は、あいりん地区と呼ぶことに「一種の偽善的なにおい」を感じているといい、五の項目へ次のように書いている。

――地理的には離れて暮していますが、二〇代でのふれ合い以来心のどこかにはいつも「釜ケ崎」が生きています。（それは多分に心情的なかかわりかたといったもので、簡単には筆につくせませんが、貴誌の毎号が、深い想いをこめた文字で埋めることを、ひそかに祈っております）

こう書いたあと、小関氏は「渡世」購読のため送金してきた。編集委はとりあえずバックナンバーと単行本「渡世」を送った。

牧村史陽氏（郷土史家）の釜ケ崎の方がいいという理由。

――へんな名前に変えてそれですべてがおさまったと思っている安易な考えがまちがっているのではないでしょうか。実態は知りませんが根本的な対策は全然できてないようです。

中谷陽氏（作家）は新今宮駅からほど近い浪速区に事務所をもっている人だが、質問の一と二へ、こう書いてくれた。

――伝統的な地名にまさるものはない。愛隣!?きくのも嫌だ！

――ずっと昔、釜ケ崎に住んでいたことがある。まだ天王寺館があったころだ。情がこ

まやかで、文なしでも生きて行けた。そしていつかここから抜けてやる！　といつも思っていた。抜け出たときボクはフト一抹のさびしさを覚えた。やっぱり釜はなつかしいところだ。

田辺聖子氏（作家）は、釜ヶ崎については黒岩重吾氏の作品を通じてしか知らないといっているが、それでも釜ヶ崎の方がいいとして次のように理由を書いてくれた。

――伝統があって自然だし、あいりんというのは、押しつけられた偽善臭があります。

大藪寿一氏（大阪市大教授）は田辺聖子さんと反対に、釜ヶ崎のことをよく知っている人だ。専門は社会病理学で、大阪市が今年六月三十日に作った「愛隣地区福祉対策専門分科会」の中心メンバーになっており、釜ヶ崎を研究した本も出している。そういう大藪氏の質問一についての意見。

――地区の名称にはこだわりません。どちらでもよいと考えます。要は、地区の生活環境、労働条件、生活条件を向上させることだと考えます。

また質問四の二つの呼び方以外に、というのに対して次のように提案している。

――七番街（七の数字に象徴されるように幸福を求めつづける街の意味。シカゴのスラムのなかで改良事業が進みつつある「五番街」にあやかって考えてみました）／水渡街道（明治三十三年の地名改称で水渡釜ヶ崎が水崎町になっている。釜ヶ崎のかわりに水渡街道と呼んでもよい。／住吉街道または紀州街道。

中川裕嗣氏（府知事室広報課企画係長）は、一課員として回答ということで、呼び方については「西成」がいいという意見を出し、その理由を書いてくれた。

――一般に「釜ヶ崎」という名称は昭和三十六年八月一日の騒動以来大阪の無法地帯の

ように受けとられていることに何らかの抵抗を感じる。また「あいりん」という名称が、その後建設された「愛隣会館」を中心にした地域で、お互いにいがみ合うことなくしましょうといった意味でつけられたように聞いているが、これもその地域に住む人には何かなじみにくいように思ってきたし、ややきれいごとのように取られて固有名詞としてはぴったりこないようにふだんから考えてきた。その点、西成、東成、東、西、南、北、といった行政区画面での呼称のほうが一般的にいって良いのではないかと考えます。また「西成」という表現は①固有の名称である　②全国的に霞町、あいりん等の表現よりよく知られている。　③その地域の住民にもなじんでいる等の関係からも良いと思います。

さらに中川氏は質問五への回答のなかで「行政面での施策がまだ十分ほどこされているといえないと思われる　」と、行政の側にいる人としての反省も見せている。

本田良寛氏（医療センター勤務の医師）については、この雑誌の読者には説明の必要はないだろう。ふつうにはリョウカンさんと呼ばれて親しまれ、頼りにされている人。そんな本田氏も釜ヶ崎の方がいいという意見で、質問の五、日頃の考えを紹介する。

――淋を愛すでなく、愛の隣りはにくしみだけでなく、現地で見られる人間の状況の悪循環を何とかなくさねばと考えております。方々に手を出すこともできませんので、医療が今以上の対応ができるようにがんばっていますが、現実の日々の対応におわれていますが、やれるだけがんばります。（編集部の注＝「淋」はリン病のリン）

依田正和氏（朝日放送第一放道部・TVニュース記者）は仕事を通じて次のように書いてくれた。

――私の乏しい取材の経験でも、釜ヶ崎の人から「あいりん」という言葉を聞いたこと

は一度もありません。

私が取材を通じて忘れられないのは、釜ケ崎のある人に言われた言葉です。「TV、もちろん信用してないよ。でもあなたが取材したいのなら、拒否はしないよ」。どうか、TVだから新聞だからという拒否反応はしないで下さい。一人一人の取材者の目をよくみて下さい。立場は明確にちがっても、何か互いの接点があるはずなのです。そしてそのことが、互いのささやかな〝共斗〟をきっと準備することでしょう。

依田氏は「越冬テント村」「千成ホテル火事」「夏祭り」などを取材したことがあるそうで、紹介した以外にも意見を書いてくれている。紹介の分、まだの分とあわせて、あとでもう一度依田氏の意見にふれてみたい。

林信夫氏（雑誌「ブレイガイドジャーナル」編集者）は釜ケ崎、西成のほうが好きだといって次のように好きな理由を出している。

――愛隣、などというイヤミたらしい〝言いかえ〟にくらべてずっといいと思う。現在放送界では禁句とされる言葉がやたらとふえ、「せむし茶屋」という落語は、せむしという言葉のゆえに放送できなくなった。釜ケ崎を愛隣という〝言いかえ〟は、放送界における禁句以上にアホらしく腹のたつことだ。

竹島昌威知氏（雑誌「関西文学」編集長）は同時に地元の商店主でもあり、地域の歴史に通じた人だが、地名は自然発生的なものの方がよく、また釜ケ崎という地名は「大正初期までの地図には載っていた。だから釜ケ崎でよい」との意見のあと、商店主として次のように書いている。

――最近この地区の状況は、日雇労働者に仕事が少ないことで周辺の商人にも影響が出ている。

トク名の人が一人いる。アンケート発送の

時、控えの名簿と回答用紙に同じ番号でもつけておけばよかったが、そんなメンドーなことはしなかったのでどなたの回答かまるでわからない。このトク名の人の意見。

――釜ケ崎（自然のままの呼称がなぜ失われようとしているか）

――「労務者渡世」という呼称も個人的にはあまり好きではありませんが、諸氏の御健斗を心から期待しています。今の諸氏の考えかたが本もののような気がします。

小金井道広氏は雑誌編集者と自分の仕事を書いているが、どんな雑誌かわからない。アンケートの発送リストには小金井氏という名はないから、何かの雑誌あてに届いたのに回答してくれたには相違ない。しかし、住所も書いてないのだ。質問五のところに小金井氏はこう答えている。

――環境とか住み心地は為政者の前向きの努力によって作られると同時に、そこに住む者によっても作られる。とすれば両者の〝努力〟は、明日にでも明るくすばらしい庶民の街、労働者の街「釜ケ崎」を現出させることも可能ではないのでしょうか。

大谷民郎氏（作家）は浪速区に住み、家業の表具師の方を自分では名乗っているが、「ニッポン釜ケ崎」という本の著者だし、第一次の〝暴動〟のあとでも、原因となった東田町交番近くの交通事故の主人公の過去を小説に仕上げたこともある。

――釜ケ崎は、庶民の、しかもその底流の、肌と肌どのぬくもりを持った船場とならぶゆかしい名だ。

大谷氏はこう書いて、さらに次のようにいっている。

――カスミ町の車庫跡や、クラブ太陽堂などの、広大なる空地をみていると、権力者になって、おのれの夢の中の街をつくりたいなあと、しみじみ思う。

藤原秀憲氏（新和出版社長）は、本誌で紹介したこともある郡昇作氏の労作「釜ケ崎」の復刻版を最近出した人で、その本はいいものだから生協でも扱っている。また藤原氏は西成区に住んでいるから地元人でもある。そんな藤原氏は、アンケートの五項目の質問の方は空白にして、用紙のウラへ、横書きにベッタリと釜の歴史などを書いてくれた。そのなかの、ほんの一部分だけ紹介。

――釜ケ崎が愛隣地区と名前をかえても、労働力が不要となればたちまち廃棄の街と化すようでは、まったく意味のないことです。

――名呉浦、鳳江浦、敷津浦を総称して難波津といっていた頃をみると、三韓などの外国との文化交流の港の一つが釜ケ崎であったのかも知れません。いいかえれば民族文化の発祥地、上方（かみがた）の源ともいうべき存在であったといってもいいすぎではないでしょう。

小林音吉氏（読者）はとてもすなおな考えを送ってきた。

――「あいりん」とは訳せば、肩を寄せ合って生きていく。そのねがいがこめられているのではないでしょうか。でも現実はきびしい（中略）だから「あいりん」という言葉はピンとこないと思います。

以上で、寄せられた回答は全文ではないが一通り紹介した。

あいりん＝愛隣地区がいいというのは一つもない。ただし、これは質問の出し方と関連しているだろう。アンケートの前文のなかに編集委の考えをはっきりさせているのだから。

しかし、かといって回答してくれた方々が、編集委の考えに迎合したのではない。迎合して何かトクになるような、権威ある「労務者渡世」ではないのだ。

また、あいりんを可とする意見が見られないのは、その呼び方をきめたり、使ったりする側、府警本部、西成署、西成区長などから新聞放送関係の回答がほとんどゼロだったことの、当然の結果でもある。

ゼロといえば、政党と議員の回答はほんとうにゼロだった。

これは、釜ケ崎が完全に政党と議員（またはその志望者）から、票にならぬと無視、黙殺されている証拠だろう。それにしても、ツルミ橋商店街に事務所のある吉田信太郎、釜の北の端といえる浪速区の環状線寄りの松田慶一、こういう人々の無回答は、編集委としてはちっとも悲しくないが、その御当人のために悲しい事実だった。さらに柳本卓司。この人は一年生議員（市会）だが、この人の実家は山王北門筋の酒屋で、立ち呑みもやっている。釜のアンコも客として呑む店だ。この人は自民党中曾根派の若手ホープで将来が約束されているらしいが、彼の生い立ち、成長過程に釜が無関係であるはずがない。いわば唯一人の地元出身ともいって良い人で、だからこそ、議員という立場からのしゃくしじょうぎな回答でない回答も期待していたのだが。

もっと悲しいのは「受取拒否」とでっかく赤で書いた紙を封筒に貼って、アンケートを返してきた日本共産党大阪府委員会だ。封筒には〈「労務者渡世」編集委員会〉のゴム印がおしてあるだけで、中味はわからない。封じ目はセロテープでおさえただけだから一度あけてみることもできなくはないが、まさか堂々たる政党がそんなミミッチイまねはしないだろう。とすると「労務者渡世」という名前は、日本共産党にとって「拒否」すべきものとして登録ずみと考えるしかない。悲しいというより恐ろしいことだ。つまり、日本共産党は、どんな理由かこちらにはわからないが、ある名前についてはアタマから受け付けないことをはっきりさせた。もしもと仮定して考えれば、日本共産党が権力をにぎった場合、お気にめさない名前を持った民衆や、民衆の団体の手紙は、そのなかに何が書いてある

るかに関係なく、受けとってもらえないわけだろう。もうこれ以上は書きたくないが、衆議員の村上弘をはじめ、党中央の幹部を出している大阪府委員会の「受取拒否」は、日本共産党そのものの態度とも解釈できて、実に悲しく恐ろしい結果だった。

公明党の府本部や議員も受取拒否ではないが回答なしという点では同じこと。しかし、自民党から共産党までの政党と議員が、このアンケートにきちんと応じてくれるとはもともと考えていなかったので、編集委は「受取拒否」の日本共産党もふくめて、やっぱりな……と、むしろ予想的中に微笑しているところもある。

回答なしだった個人名を少しあげておこう。

もず唱平氏。この人はあの大流行歌「釜ケ崎人情」の作詞者で、ことは天国釜ケ崎……と書いている以上、あいりんには反対なのだろうが、その意見をきいてみたかった。

野坂昭如氏。この人も「騒動師たち」をはじめ一連の釜ケ崎小説があるのでアンケートを送ったのだが……。

藤本義一氏。野坂氏は東京住いだがこちらは大阪地元人で「人肉サラダ」という小説は釜の関連だし、戦前のトビタで女たちの薬救出に生涯をかけた人物のことも書いているのでアンケートを送ったのだが……。

金井愛明氏。「越冬」にも尽力した牧師で、西成署ウラで食堂をやっている。

E・ストロー氏。釜かあいりんかについては、すでに「釜ケ崎はワタシの故郷」という本を出したこの人の意見はわかっていた。しかし、今回はあらためて聞いてみたかった。

東淵修氏。カスミ町交差点の東南側、立ちのみの足立の本店のウラの方でアパートを持っているこの人は、「釜ケ崎愛樂詩集」などの著者。京都在住のもず唱平氏とちがって、つねに釜ケ崎の上着人を訪るこの人も無回答とは。

山本敬一氏。全港湾労組の関西地方本部委員長。全港湾には建設支部西成分会という組織もあるのだが。

次は受けとった回答の一部について、編集委としての考えを出しておきたい。

朝日放送のTVニュース記者依田正和氏は前に紹介したように、TVや新聞に対して取材を拒まないでくれといっている。これは依田氏の立場から当然の発言だと思う。ただし、それならば——とこちらからいいたいこともある。

こんどのアンケートの、新聞放送関係の送り先は次の通りだ。

（新聞）朝日、読売、毎日、産経、大阪、関西、新関西、新大阪、大阪日日。（放送）毎日放送、朝日放送、関西TV、読売TV、NHK、ラジオ大阪、FM大阪。

この十六社の、社会部長または報道部長あて名にしたアンケートに対して、朝日放送は依田氏から回答してもらったが、その他では、毎日新聞が

——アンケートの性質上、個人的意見は遠慮申し上げたいと思います　社会部　という手紙つきで、無記入の回答用紙と返信用封筒を別封筒に入れて返してきただけだった。

毎日新聞のことわり状自体、こちらが社会部長あてにアンケートを送っている考え方、つまり社会部長という職名を重く見ているのに対して「個人的意見」と解釈する誤りを犯しているのだが、それでもまだ、一つの態度表明という点ではましだ。

ほかの新聞放送十数社はまったく応答なし。手っとり早くいえばこちらからの取材を拒否している。朝日放送の依田氏に他社の態度について責任をとれなどとはいわないし、いえもしないが、事実がこうだったことは知ってもらいたい。拒否もまた相互に保ちたい自由のワクの中のことで（だから日本共産党の「受取拒否」も責めようとは思ってない。解釈

受取拒否

受取拒否

受取拒否

543

大阪市
天王寺区 空堀 二-二
日本共産党
大阪府委員会 御中

受取拒否

大阪市西成区萩之茶屋1-6-15
釜ヶ崎生協気付
〔労務者渡世〕編集委員会

しているだけだ）、それはそれで各自勝手だが、同じだけの自由は、いわゆるマスコミである十数社に対してこちらにもある。なければオカシイのだ。

もう一点依田氏の回答について。

依田氏は単行本になった「労務者渡世」が梅田の紀伊国屋書店にあったのを見たそうで、そのことについて次のように意見を書いてくれた。

――せっかくの御発展にケチをつける気はさらさらありませんが、「労務者渡世」はやはり、釜ヶ崎のスタンドで競馬紙とならんで置かれているのがよく似合います。

似合う、ということではたしかにその通りだと思う。しかし、この意見を読んで、すぐ思い出したことがある。

それは、「労務者渡世」が一時ガリバンからタイプ印刷に変ったとき、手書きのガリバンの方が味があるという見方が、釜ヶ崎に住んでない、いわば文化人的な読者のなかにあったことだ。

ガリバンの味、いかにも、そういうことはある。しかし、そのガリ版原紙を手書きして印刷する労力と、どんなに苦心しても決して読みやすいとはいえない刷り上りと、つまり作る者と買って読む者の不便はどうなるのだとその当時に反論したが、依田氏の意見にも似たところがある。

やはり野におけレンゲ草　ならばいいが、それではすまぬ問題をふくんだ似たところだ。

だとえていえば「らしく」の論理とでもなるだろうか。

らしくの論理は大てい上から下へ、優者から劣者へ適用される。

親方が子方に向って、使われてる者は使われてる者らしくというように。その逆で、子方から親方に向って親方らしく　と要求したらこれは反抗にされてしまう。

女は女らしく、貧乏人は貧乏人らしくなどみんな同じだ。

同じように、釜ヶ崎の雑誌は釜ヶ崎らしくお粗末なのがいい、というのが、ガリバンの味を讃えた人であり、依田氏ではないか。

こちらはしかし、できれば輪転機を備えて釜ヶ崎からりっぱな日刊紙を出したいし、多色刷りの豪華な雑誌も作りたいし、自前のTV放送だってやりたいのである。もちろん、ほとんど永久の夢にすぎないが、そんな夢すらも「釜ヶ崎らしくない」と非難されそうな気がしてくる。

依田氏の回答にばかりこだわっているようだが、依田氏がそれだけ内容のある回答をしてくれたからのことで、反感としていろいろいっているのではない。

――立場は明確にちがっても、何か互いの接点があるはずなのです。

と書いている依田氏には、こうしておたがいの考えをぶつけ合うことも接点の一つだとわかってもらえるだろう。

さて、このアンケートとは別に、編集委の一人が釜ヶ崎で直接にインタービュードした結果も今回発表してある。

その方を読むとわかるように、現実の釜ヶ崎に暮す者の声では、インタービューにあらわれた限り、釜ヶ崎よりもあいりんがいいというのが多い。これはアンケート回答とはっきりちがっている。

インタービューの結果からいえば、アンケートの前書きに

――私たちは釜ヶ崎と言っています（そのほか、なかまうちでは「霞町」と言う者や、単に「西成」と言う者もいますが）

と、こう書いたことがまちがいのようになってしまう。

だが、やはりまちがいではないのだ。

釜ヶ崎から仕事の現場へ行くと、そこの親方、監督、常傭者たちは、毎日顔ぶれの入れかわる労働者との話のいとぐちに、わかりきった質問をしてくる。どこに住んでるか、と。

それに答える労働者の返事が「あいりん地区」であることはまずない。少なくとも、私の釜ケ崎ぐらしの体験では全くなかった。そして、年令の多い者に「霞町」という言葉がよく使われ、「西成」というのは年令に関係なく一般的であり、「釜ケ崎」というのは少し気取った（ひらき直った）感じを伴なってのことになる。略称としての「釜」ならこれはスンナリと使われる。数的な比率は求めようもない。ただ明らかなのは、話しことばとして「あいりん地区」がほとんど使われてないことだ。

しかし、インタービューの結果があいりんに頼いているのは、釜ケ崎といったりいわれたりする場合の、或るイメージへの抵抗という問題があるからで、それは丁度、私たちまでもふくめた或る考え方、感じ方の最少的共通性を持っているものが、釜ケ崎というときにふと抱く一種のロマンチシズムの（イキガリの）裏返しみたいなことになるのだろう。

この点については、さまざまな体験と思考が私たちにはあるが、いまはそうしたことを一切省略して、アンケート結果とインタービュー結果とを、同じ重さで提出しておこう。

次は追加事項。

アンケートについては十月十日までにと〆切を設けていたが、十八日になって一通届いた。しかもそれが、いままで紹介してきた回答とくらべて異色なので、〆切に関係なく紹介する。

木寺清美氏（ラジオ大阪報道部デスク）からの回答である。

――（質問一について）愛隣地区がよい。

――（質問三について）大体、特別な地区名をつけることと自体反対である。西成区〇〇町〇丁目でよいと思う。なぜなら、地区名があるとそれを呼称するとき、おのずから、差別意識が育くまれてくる。しかし、どうせ呼

称をつけるなら、悪い響きをもった従来のものより「愛隣」の方が快いにきまっている。

木寺氏の意見は明快だ。

ただこちらから付け加えたいのは、東西の入船町、甲岸町、海道町のような、この地域が昔は海に面していたことを示す町名がみんな行政によって消し去られ、萩之茶屋△丁目とか花園町△丁目などと、つかみどころもない漠とした町名に変更された事実だ。やたらと古い名がいいとは決して思わないが、町名の広域化の蔭にはコンピューターシステムへの配慮がおそらくあるはずで、それは愛隣地区という一層の広域化名称を強化するだろうし、大阪中、日本中のあらゆる地域が△△地区と行政的に処理される方向を暗示してはいないかということだ。

たとえば、人間がほとんどまったく個々に生きている釜ケ崎が逆に愛隣地区と名付けられたように、真実を報道しつづけるマスコミの多い大阪駅周辺一帯を、ウソ地区とかネジマゲ地区とか名付けることも行政には可能なのだ。そしてその場合、官製「愛隣地区」を一せいに使いはじめていまも使っているマスコミは、ウソ地区にもネジマゲ地区にも反対の論拠を失なうのではなかろうか。

アンケートへの回答紹介、および少々のこちらの考えの付け足しはこれで終り。

回答を送って下さったみなさんに感謝します。

（編集委T6）